

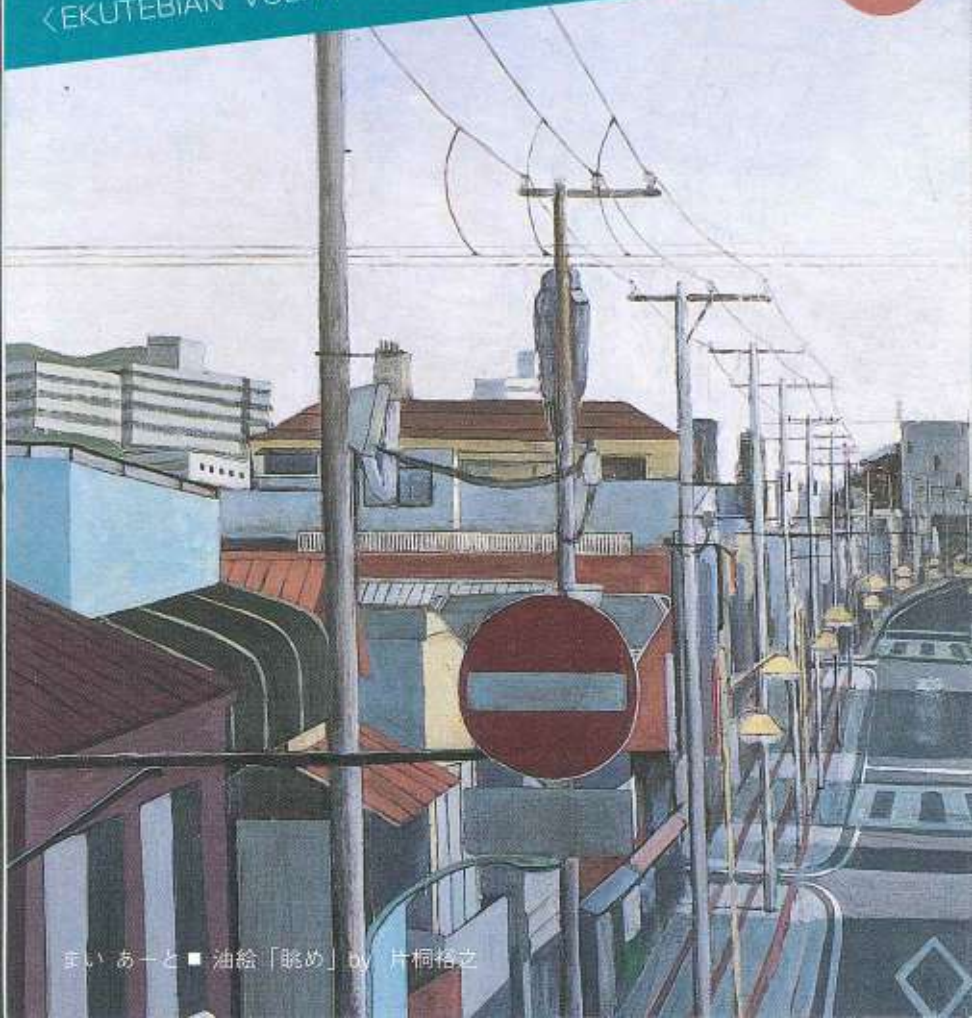
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

2

<EKUTEBIAN VOL.17 FEBRUARY 1999>



まい あーと ■ 油絵「眺め」 by 片桐格之

くらふと画報 ① 協力：立川市クラフト同好会

スーパー竹トンボ

2時間で作る「回転翼機」の始祖

昔懐かしい玩具としておなじみだが、最近は新たな競技ツールとして注目される竹トンボ。公式ルールが定められ、各地で大会が開催されるなど、その熱度は増すばかりだ。「一番のポイントはバランス。左右の翼の重量然り、翼と軸との重量然り。組立て自体は簡単ですが、バランスをとる作業に注意を要する。それに気がつけば、初心者仕様なら2時間で完成します」(中島さん・談)。

5月9日には国営昭和記念公園で全国大会が開かれるという。



今月の先生
中島勉さん(栄町)



1

竹を細かく割ってパーツ(翼と軸)の作成。翼になる竹の中央に軸を通す穴をあける。



2

翼の左右の長さ、竹の厚さが均一になるように紙ヤスリで形を整える。



3

軸を差入れ、空缶の縁に乗せて翼のバランスを見る。翼が傾く場合は2と3の繰り返し。



4

翼にひねりを加えるために、中央部をバーナーで熱する。割らないように注意。



5

右利きの人は右手を手前に、左手を向こう側にひねること。左利きの場合は逆になる。



6

軸を接着剤で固定したら完成。





◆ えくてびあんレポート ◆

ふ し ょ う ふ し ょ

夫唱婦唱

『陶八陶房』伊藤光則・友紀さん夫妻を訪ねて



伊藤光則・友紀さんご夫妻（砂川町）は、二人揃って陶芸家。
朝日陶芸展、日本クラフト展、全国テーブルウェア・フェスティバル展など、
毎年のように入賞を果たす気鋭の芸術家夫婦だ。

畑が広がる閑静な地に夫婦の陶房「陶八陶房」はある。

奥に大きな灯油窯が鎮座する作業場の壁には、これまで手掛けた作品が所狭しと並んでいた。
大胆で自由なラインが目目をひく光則さんの作品。繊細で柔らかな印象の友紀さんの作品。
それぞれが確固たる世界を築きながらも、並んだ時に感じる不思議な調和の姿。

それはそのまま、伊藤夫妻の姿に重なる。

「方法論は違っても、見ているものは同じ」（友紀さん）。

夫唱婦随ではない、「夫唱婦唱」という爽やかな形が、ここに。



立井。ドリッツプの方法はいかがですか。ペーパーとネルの違いとか。小松。ネルの場合、お湯を注いだ時に豆が全体に膨らむんです。そういう意味では美味しいコーヒーを淹れやすいと思います。ただネルは管理が大変なんです。洗いや保管の仕方に手間がかかる。時間がある人はいいいんですが、手軽に味わいたいという場合には不向きだと思います。私は、手軽で安全なペーパードリッツプを薦めます。

立井。今の話をうかがうと、我々はちよつと勘違いしていることが多いみたいですね。固定観念というか。

小松。生半可な知識や情報にこだわらないで、自分が「美味しい」



画・知久正義

病夜の夜

電気もつけず、風の夜、

月のあかりに、ねてました。

—— 童話の中の子のように。

お熱の床で、まるいまま、

つめたいリングゴ、たべました。

—— 小さいときにしたように。